

ふくい社会福祉

2019
7
No.437

Fukui Social Welfare

写真で振り返る「プレイバック平成のボランティア②」ロシアタンカー重油流出事故（平成9年1月）



※特集と最終ページに関連記事

CONTENTS

2,3P

特集

ボランティア活動の変遷で振り返る“平成”

テーマ：「災害とボランティア」

まち・ひと・キラリ 後藤勇一さん

4,5P

県社協

- ◆前会長・新会長ごあいさつ
- ◆役員・評議員名簿

6,7P

報告

- ◆県社協平成30年度事業・決算報告

8P

- ◆『つなぐボランティアの輪』推進運動のご案内

9P

大会等報告

- ◆県保育研究大会開催報告
- ◆子ども食堂助成決定

10,11P

社協 TOPICS

- ◆福祉サービスにかかる苦情相談窓口のご案内
- ◆こちら経営相談室です！
- ◆介護実習・普及センター研修・講座のご案内
- ◆ちょこっと就労就職説明会・介護入門的研修のご案内

12P

- ◆寄付・寄贈
- ◆子どもの居場所づくりフォーラムのご案内



令和元年度特別企画 ボランティア月間制定30周年記念

「ボランティア活動の変遷で振り返る“平成”」

「7月号テーマ「災害とボランティア」」

令和元年度に「ボランティア月間制定30周年」を迎えるにあたり、月号さまざまな切り口から平成のボランティア活動を振り返っている特別企画の第2弾。今号では本県にも身近なテーマである「災害とボランティア」を取り上げました。

災害が頻発した「平成」

平成は、まさにさまざまな災害に見舞われた時代ともいえます。

平成3年の雲仙普賢岳の噴火、平成7年の阪神・淡路大震災、平成16年の台風23号、新潟県中越地震、平成19年の能登半島地震、そして、2万人を超える犠牲者を出した平成23年の東日本大震災のほか、その後も台風や豪雨による水害や土砂災害、地震や噴火、大規模火災等が毎年全国各地で起きています。

本県においては、平成9年のロシアタンカー重油流出事故や平成16年福井豪雨、平成24年越前市東部集中豪雨、平成25年台風18号等で大きな被害を受けています。さらに、37年ぶりとなる平成30年の豪雪は記憶に新しいところです。

災害ボランティアの登場

災害の多発とともに平成の時代を象徴するものとして、「災害ボランティア」の登場が挙げられます。災害ボランティアが注目されるようになったのは、平成7年の「阪神・淡路大震災」と言われていますが、この時、復興支援のために個人や任意のボランティア団体を含め、延べ100万人を超える人たちが被災地に集まるなど、災害ボランティアによる被災地支援活動の機運が高まりました。

一方で、当時は被災地でボランティアの活動を調整する仕組みが整っていませんでした。こうした状況を受けて、災害対策基本法が改正され、行政が「ボランティアによる防災環境の整備」に努めることが明記されました。

社協と災害ボランティアセンター

その2年後にあたる平成9年のロシアタンカー重油流出事故に際して、多くのボランティアや活動の調整窓口として災害ボランティアセンター（以下、「災害VC」という。）の仕組みが形づくられました。これを端緒に、阪神・

淡路大震災から約10年が経過した平成16年の7月豪雨、台風による水害、新潟県中越地震では、全体で87か所もの災害VCが開設・運営されました。

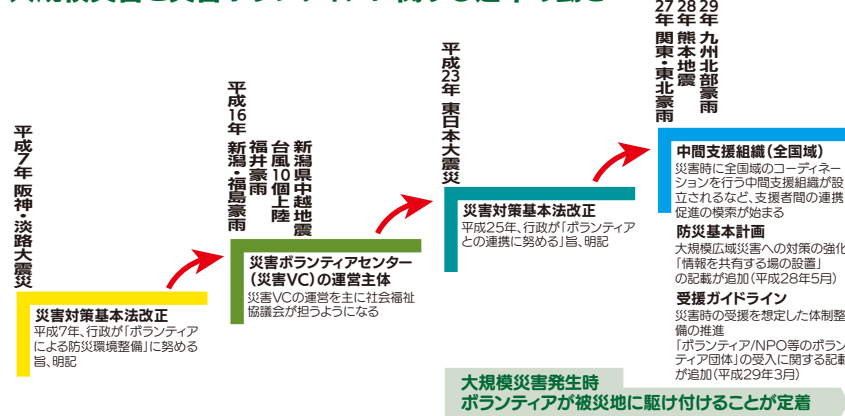
このような状況を受け、全市町村に組織をもつ社会福祉協議会を中心に災害VCを運営する形態が定着し、その後、各地の地域防災計画にも位置づけられることになりました。

重油流出事故の経験が活きた福井豪雨災害

本県で多くの災害ボランティアを受け入れるきっかけとなった平成9年1月のロシアタンカー重油流出事故では、県内外から延べ12万人を超えるボランティアが活動しました。（本会調べ）

嶺北と嶺南の沿岸12市町村（当時）のうち7か所に災害VCが開設されましたが、運営主体も県や市町行政によるもの、地元社協によるもの、さまざまなものであった中、阪神・淡路大震災で活躍したNPOや兵庫県社協、神戸市社協等の応援もあり、災害VC運営のノウハウと経験が蓄積していきます。また、行政と社協の連携や県内社協による相互支援体制、JC等の地元組織との連携の重要性を考えるきっかけにもなりました。

大規模災害と災害ボランティアに関する近年の動き



※内閣府「防災における行政のNPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブック」より（平成30年4月）

この経験を踏まえて、県内の主だった民間組織が参画し、平成11年に発足したのが「福井県災害ボランティアセンター連絡会」（事務局：福井県）です。その後、連絡会では、大規模災害に備えて平常時から構成団体間の連携・協力促進のほか、防災訓練等も行ってきました。また、当時、県は全国から寄せられた義援金の一部を原資として、「災害ボランティア活動基金」を設置し、災害VCの開設や運営、ボランティア活動に必要な資機材の購入、ボランティア活動保険の公費負担等の仕組み

〈まち・ひと・キラリ☆〉

キラリワード：私と災害ボランティア

今回は、東日本大震災で被災した岩手県陸前高田市に震災直後から現地に移り住み、6年間に亘って被災地での支援活動を続けてこられた後藤勇一さんにお話を伺いました。

私は、もともと県民生協の職員で「食の安全」や「消費のあり方」を通して、社会を良くするための運動に関心をもっていました。そして、日本でんかん協会にいた姉の関係で、福井県のてんかん協会の手伝いを引き受けたことがボランティア活動のきっかけです。

平成7年の阪神・淡路大震災では、地元のとんかん協会を手伝って、会員の安否確認や避難所を回っててんかん病患者の方に必要な情報を伝える活動も行いました。これが災害ボランティアとの出会いです。

その後、ロシアタンカー重油流出事故の時には、災害時にさまざまな専門性や人の力が集まって課題解決につながっていくこと、そしてその仕組みとして災害ボランティアセンターが大きな役割を果たすことを目の当たりにしました。また、同じ時期に、福井市ボランティア連絡協議会の会長となり、障がい者の社会的バリアをなくすため、行政への要請活動を行う中で、弱い立場の方の声を市政に反映させたいと思い、市議会議員になりました。

そして、2期目が終わる平成23年3月に、東日本大震災が起きました。岩手には友人がおり、連絡がつかず安否が気になりました。そんな時、「チームふくい」（県災害ボランティアセンター連絡会）の先遣隊としての声がかかり、3月14日に岩手県に入りましたが、陸前高田市を訪れた時、被害の大きさを目の当たりにし、ここで活動することを決断しました。

陸前高田市では、まず、地元社会福祉協議会の災害ボランティアセンターの立ち上げを手伝い、また、チームふくいの現地窓口として福井県からのボランティアの受入態勢づくりや活動場所の調整も行いました。また、被災地で知り合った障がい者の作業所を手伝ったり、田畑や農道の瓦礫を自治会や行政とかけ合って撤去する仕組みも作りました。さらに被災地を盛り上げるために朝市を手伝ったり、福井や東京で陸前高田市の物産販売も行いました。その情報や活動をブログで発信し、県外からの支援者のコーディネート役も担いました。

福井に家族を残し、単身で陸前高田市で生活して6年。被災者がしたいこと、してほしいことに寄り添って、自分にできることを続けてこられたのも、自分を頼ってくれた人、また、応援してくれたさまざまな人との出会いやつながりがあったからです。

その後、父親の介護をきっかけに平成29年4月に帰福しましたが、父親は昨年亡くなりました。今は母親の介護をしながら、幼稚園の送迎バスの運転、障がい者施設の宿直や運送の仕事と忙しい日々を送っています。

それでも陸前高田市への思いは常にあります。再来年、東日本大震災から10年目となる時には、現地を訪れたいと考えています。



元福井市議・元福井市ボランティア連絡協議会会長
後藤勇一さん



現地窓口として福井県からのボランティアの受入態勢づくりや活動場所の調整も行いました。また、被災地で知り合った障がい者の作業所を手伝ったり、田畑や農道の瓦礫を自治会や行政とかけ合って撤去する仕組みも作りました。さらに被災地を盛り上げるために朝市を手伝ったり、福井や東京で陸前高田市の物産販売も行いました。その情報や活動をブログで発信し、県外からの支援者のコーディネート役も担いました。

づくりもすすめてきました。

一方、県社協では、県内にとどまらず東海北陸ブロックの各県・名古屋市区社協と災害応援協定を締結し、広域災害を想定した人的・物的支援の仕組みを構築していきました。

平成16年に発生した福井豪雨災害では、こうした取り組みの成果が大いに発揮されることになります。連絡会と県の基金、社協間ネットワークが活かされ、速やかな災害VCの立ち上げで、全国から駆けつけた延べ6万人ものボランティアの受入れを混乱なく行い、

早期の復旧につなげました。

ボランティア先進県を目指して

ロシアタンカー重油流出事故や福井豪雨災害を経て、本県では災害ボランティアを支える仕組みと、県民の災害ボランティア活動への関心・参加が高まってきました。また、県は平成17年に全国初となる「福井県災害ボランティア活動推進条例」を制定し、災害ボランティア活動を積極的に後押しする体制もできていきました。

そして、これらが平成23年の東日本大震災時に、多くの県民が岩手県陸前高田市をはじめとする被災地支援に携わることへとつながっていきました。

災害ボランティアは、災害を「他人事」と思えない県民の共感に根ざしたものと いえます。こうした意識が、災害時に限らず、普段の暮らしにおいても他者の困りごとや生活のしづらさへの共感、ボランティア活動という具体的な行動につながっていくことを確信しています。

【参考文献】

- ・福井県社会福祉協議会「ロシア船籍タンカー「ナホトカ号」重油流出事故における福井県下社会福祉協議会による取り組み報告書」（平成10年5月）
- ・福井県社会福祉協議会「福井豪雨災害」実践記録報告書」（平成17年3月）
- ・内閣府「広く防災に資するボランティア活動の促進に関する検討会提言」（平成29年3月）
- ・内閣府「防災における行政のNPO・ボランティア等との連携・協働ガイドブック」（平成30年4月）

福井県社協 前会長・新会長ごあいさつ

退任にあたって

清川

忠



この度、6期11年務めた県社協会長を退任することとなりました。

任期中は、県民の皆様、市町社協、社会福祉施設、福祉関係団体、民生委員児童委員、行政機関をはじめとする多くの皆様のお力添えにより、大過なく重責を全うすることができました。ここに、改めて深く感謝を申し上げます。

在任期間を振り返りますと、就任直後は、リーマンショックによる経済情勢や雇用状況の悪化により、暮らしに関わる福祉課題が一気に増大するとともに、福祉・介護分野の人材確保対策も大きな課題として顕在化し始めた時期でした。

また、こうした状況の中で発生した「東日本大震災」では、市町社協や関係機関のご協力のもと、発生から半年間にわたって、岩手県陸前高田市等への支援活動にも取組みました。未曾有の災害から8年が経過した今も、懸命に復興やまちの再建にご尽力されている被災地の皆様に、

改めて敬意を表する次第です。

一方で、平成22年には県社協が創設60周年を迎え、関連する記念事業も行いました。戦後の復興期から7代にわたって先代の会長方が積み重ねてこられた福祉への情熱や想い、歴史の重みを感じた機会でもありました。

この間、県社協といえしまでも、関係の皆様とのネットワークを礎に、生活に困難を抱えた方、生きづらさを抱えた方に対する生活支援、地域の支え合い活動の基盤づくり、ボランティア活動の普及啓発、福祉人材の確保や育成などに取り組んでまいりました。

地域では、人と人とのつながりが希薄化し、社会的孤立が生まれやすい状況にあることから、今まさに、お互いの関心を土台にした「地域共生社会の実現」が求められています。その意味で、社協が歴史的に積み重ねてきた「地域福祉」の取組みをこれまで以上に具現化していくことが重要だと考えています。

平成29年から本格化した社会福祉法人制度改革の流れは今も続いています。68年の歴史をもつ県社協として、県民の皆様や関係の皆様のご信頼や負託に応えるべく、【挑む】ことを忘れない組織経営や事業活動に取り組んでいかれることを心からご期待申し上げます。

就任にあたって

小藤 幸男



福井県社協は、戦後の復興期、民間社会事業の中核を担う組織として、昭和26年に創設、2年後の昭和28年12月に法人化しました。

当時、福井精錬加工株式会社社長であった、黒川誠三郎氏を初代会長に船出した県社協は、今年で創設68年を迎えています。この歴史ある組織では、この間、8人の方々が会長に就任されてきました。

特に、前任の清川忠氏におかれましては、6期11年の永きにわたり、変化の激しい社会情勢の中で、福井県内の「地域福祉」のかじ取りにご尽力されてきました。

歴代の会長に心から感謝を申し上げますと共に、第9代会長として、これまでの歴史や取組みの中で培ってきた、多くの関係機関・団体の皆様とのつながりを大切にしながら、県民一人ひとりの信頼と期待に応えられる組織運営に尽力してまいりたいと存じます。

さて、今日、地域社会においては、

社会的孤立を背景に、生きづらさを抱える人たちが増えているだけでなく、貧困の連鎖、さらには認知症をはじめ、介護を必要とする高齢者やその家族などがたくさんの方々の生活課題を抱えてしまうケースが増加しています。これは私たち社会福祉関係者のもとより地域住民にとっても共通の課題となっています。

また、近年は大規模な自然災害が全国で頻発しておりますが、改めて普段からの防災・減災意識の啓発やその対策が重要になってきています。こうした課題の解決に取り組むうえでは、県民ぐるみの支え合いの輪や仕組みなど、地域の福祉力を高め、おくことが重要であると感じているところです。

私も県社協としましては、すべての県民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる福祉のまちづくりに向けて、県民の皆様をはじめ、関係各位のご理解とご協力を頂戴しながら、「地域共生社会の実現」に全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福井県社協 役員・評議員名簿

去る6月25日に開催された定時評議員会において、任期満了に伴う役員の選任が、またその後の理事会で正副会長が選定されました。

役員（任期：令和元年6月25日～令和3年定時評議員会終結時まで）

No.	役 職	氏 名	母体役職等	区 分
1	会 長	小 藤 幸 男	福井放送(株)代表取締役会長	学識経験等
2	副 会 長	齋 藤 多久馬	鯖江市社会福祉協議会長	社協
3	副 会 長	伊 藤 靖 朗	元 青少年育成福井県民会議副会長	学識経験等
4	副 会 長	山 岸 博 之	小浜市社会福祉協議会理事長	社協
5	専務理事	高 松 康 二	元 福井県健康福祉部参与	学識経験等
6	理 事	前 川 徹	福井県民間保育園連盟会長	社会福祉施設
7	理 事	皆 川 恭 英	福井県老人福祉施設協議会長	社会福祉施設
8	理 事	大 島 友 治	福井県民生委員児童委員協議会長	民生委員児童委員
9	理 事	吉 田 敏 貢	福井市社会福祉協議会長	社協
10	理 事	金 森 関 治	大野市社会福祉協議会長	社協
11	理 事	稲 山 幹 夫	福井県中小企業団体中央会長	学識経験等
12	理 事	佐 野 慎 治	(株)福井銀行取締役兼常務執行役	学識経験等
13	理 事	平 等 智 恵	福井県母子寡婦福祉連合会長	学識経験等
14	理 事	八十島 幸 雄	福井県老人クラブ連合会長	学識経験等
15	理 事	山 崎 俊太郎	前 福井県身体障害者福祉連合会長	学識経験等
16	理 事	窪 田 裕 行	福井県健康福祉部長	学識経験等
17	監 事	西 村 重 稀	仁愛大学名誉教授	学識経験等
18	監 事	打 方 勇 治	山崎総合事務所会計部部長	学識経験等

※ 母体役職等名は、令和元年6月25日選任時点のもの

評議員（任期：平成29年4月1日～令和3年定時評議員会終結時まで）

No.	選出区分	氏 名	母体役職等
1	社会福祉施設	田 原 薫	福井県社会福祉法人経営者協議会長
2		塩 野 宏	福井県社会的養護施設協議会長
3		木 間 幸 生	福井県知的障害者福祉協議会長
4	民生委員児童委員	金 谷 知 美	坂井市民生委員児童委員協議会連合会長
5		松 井 誠 一	勝山市民生委員児童委員協議会長
6		今 村 ゆみ子	南越前町民生委員児童委員協議会長
7		竹 田 武	敦賀市民生委員児童委員協議会連合会長
8	市町社会福祉協議会	関 法 子	あわら市社会福祉協議会長
9		大 橋 直 之	越前町社会福祉協議会長
10		高 木 勝 美	美浜町社会福祉協議会長
11	学識経験者並びに 社会福祉関係団体等	大 中 正 光	福井県医師会長
12		樋 村 禎 子	福井県看護協議会長
13		吉 田 真 士	(株)福井新聞社代表取締役社長
14		三田村 壽 恵	福井県婦人福祉協議会長
15		田 村 洋 子	福井県連合婦人会長
16		檜 原 弘 樹	福井県民生活協同組合常務理事
17		山 本 恵	生命保険協会福井県協議会長
18		坂 下 直 樹	福井県健康福祉部地域福祉課長
19		中 谷 章	福井県市長会事務局長
20		吉 田 康 彦	福井県町村会事務局長

※ 母体役職等名は、令和元年6月10日時点のもの

2 地域を支える地域福祉人材の発掘・養成と活動への支援

- ◆明るい長寿社会づくり推進事業
 - ①第31回全国健康福祉祭とやま大会への選手派遣
 - ②広報紙「福悠人」の発行
 - ③ラジオ放送講座「いきいきセミナー」の実施
 - ④アクティブ・シニア養成講座、リーダー養成研修の開催
 - ⑤情報交流サロン、セカンドライフについての意識調査の実施
 - ⑥退職中高年者の地域活動に関する懇談会の実施
 - ⑦シニアのためのシンポジウム、シニアチャレンジ応援成事業の実施
 - ⑧チャレンジ塾開催事業、シニア・アート展の実施

Ⅲ 福祉力を活かすシステムづくり

1 県民一人ひとりの自立した暮らしを守る新たなセーフティネット体制づくり

- ◆生活福祉資金貸付事業の実施
- ◆ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業の実施
- ◆児童養護施設退所者等に対する自立支援資金貸付事業の実施
- ◆子ども未来支援事業の実施
 - ①児童養護施設退所者等に対する自立支援事業の実施（助成事業）
 - ②子ども食堂等への助成、子ども・若者支援活動者ミーティングの実施
- ◆緊急食糧支援事業の実施
- ◆市町社協設置の法人後見センターとの連携
- ◆生活困難者総合相談・生活支援事業の実施
- ◆福祉サービス苦情解決事業の実施
 - ①苦情・相談の受付、福祉サービス苦情解決機能強化セミナーの実施
 - ②苦情解決体制整備に係る事業所訪問相談、現況調査の実施
- ◆日常生活自立支援事業の実施
 - ①契約締結審査会、専門員・生活支援員研修会の実施
- ◆高齢者権利擁護推進事業の実施
 - ①専門相談窓口の開設、専門職チーム派遣、相談機関連絡会の実施
- ◆成年後見講座（入門編・実践編）の開催

2 社会福祉法人の適正な経営と地域貢献活動を支える取り組みの強化

- ◆福井県内社会福祉法人連携事業推進協議会への支援

- ◆福祉施設経営指導事業の実施（巡回訪問、研修の開催等）
- ◆介護サービス情報の公表事業の実施
 - ①公表センター事業、調査機関事業、調査員養成研修事業の実施
- ◆福祉サービス第三者評価事業の実施
- ◆地域密着型サービス外部評価事業の実施
- ◆保育部会活動の充実
 - ①第59回東海北陸保育研究大会（福井大会）の開催
 - ②東海北陸ブロック保育士会セミナー等の開催
- ◆福祉施設等種別協議会活動への支援（助成等）
- ◆民間社会福祉施設職員退職共済事業の実施

Ⅳ 福祉力を動かす組織づくり

1 災害時に備えた危機管理体制の強化

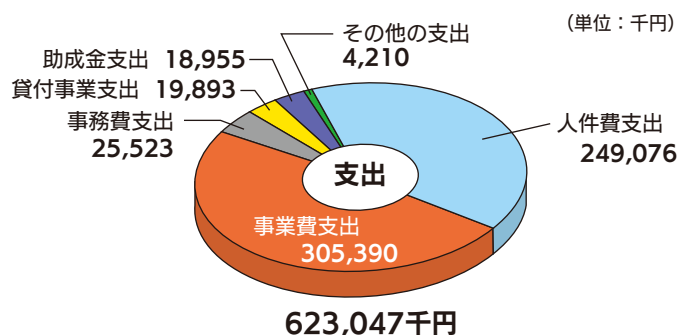
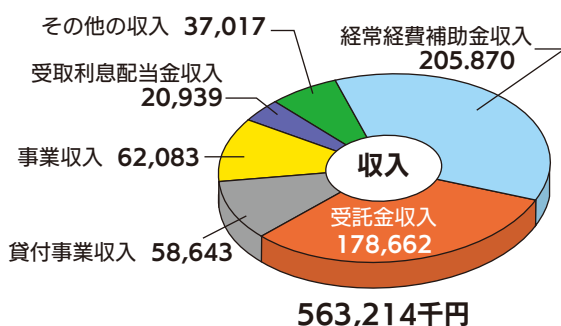
- ◆社会福祉施設における災害対策支援の実施
 - ①災害に強い福祉施設づくりのための経営者セミナーの開催
 - ②福祉施設防災マネジャー養成研修の開催
 - ③災害時応援協定に基づく代表者会議、情報伝達訓練等の実施
- ◆災害時における社協相互支援体制の基盤整備
 - ①県内社協相互協定に基づく実地訓練（情報伝達訓練等）の実施
 - ②北陸3県社協「災害支援活動合同研修会・プログラム検討会」（再掲）
- ◆災害時における事業継続計画（BCP）策定に向けた検討

2 地域福祉を総合的に推進する福井県社協の組織経営基盤の強化

- ◆役員会等（理事会、評議員会、正副会長会、監事監査）の実施
- ◆職員の資質・専門性の向上
 - ①職場研修制度に基づく職員のスキルアップ
- ◆職員業務・育成支援システムの運用
- ◆積極的な情報公開と県民等への情報発信機能の強化
 - ①機関紙「ふくい社会福祉」の発行
 - ②「ふくし広報コンテスト2018」の実施
- ◆福井県社会福祉センターの指定管理業務の実施
 - ①東側入口の自動ドア化、介助用インターホンの設置、障がい者用駐車場の整備、老朽化した備品入替等による施設の利便性の向上

平成30年度事業活動による収支の概要

※ 経常的な事業活動の収支状況



【平成30年度決算による福井県社会福祉協議会の経常的な事業活動のための収支状況について、その概要（イメージ）をご理解いただくためにグラフとして表現したものです。】

平成30年度事業・決算報告

本会では、「誰もが身近な地域で その人らしく 安心して暮らせる 福祉社会の実現」に向け、「第4次ふくい地域福祉プラン21（推進期間：平成27年度～31年度）」に基づき、市町社会福祉協議会、社会福祉施設、福祉関係団体、公的機関等との連携・協働のもと、県民とともに創り上げる地域福祉の実現に向けて、以下の重点項目を基軸にした諸事業を実施した。

平成30年度 重点項目

- ① 地域における福祉教育の推進
- ② 福祉人材の養成・確保・定着等の推進
- ③ 生活困窮者等の自立に向けた支援
- ④ 社会福祉法人の地域における公益的な活動の推進

※ 主な事業の概要は以下のとおり。

I 福祉力を育むまちづくり

1 地域で包み支え合う福祉社会を実現する環境づくり

- ◆子ども福祉委員モデル事業 ※平成29・30年度
〔指定地区〕小浜市、坂井市、池田町
- ◆介護実習・普及センター事業
 - ①家庭介護、介護出前講座の実施
 - ②介護従事者を対象とした研修事業の実施
- ◆福祉用具・住宅改修専門相談員派遣事業の実施
- ◆各種イベントでの福祉用具紹介等
- ◆高齢者の生活および介護に関する情報提供、相談の実施
- ◆地域ぐるみ福祉教育推進事業
 - ①つながりの輪づくり推進支援事業（市町社協ボランティア活動推進事業への助成）の実施
 - ②地域ぐるみ福祉教育推進事業の実施
 - ③市町社協ボランティアセンター実践研究会の実施
- ◆異世代（高齢者と学生）ホームシェア事業への支援
- ◆「つながれボランティアの輪」推進運動（7～11月）
 - ①サマーボランティア体験事業（7～10月）の実施
 - ②ボランティア作文コンクールの実施
 - ③福井しあわせ元気国体・大会応援イベントの実施
 - ④福井しあわせ元気国体・大会開催に伴う「花いっぱい運動」の実施
- ◆災害ボランティア活動への支援
 - ①「1.17 神戸希望の灯り」ならびに「3.11 希望の灯り」の実施
 - ②北陸3県内社協「災害支援活動合同研修会・プログラム検討会」の開催
- ◆第65回福井県社会福祉大会の開催
- ◆各種の協賛事業を通じた福祉活動の普及啓発
 - ①第7回ふくいチャリティアート展の開催
 - ②福祉サービス車両購入助成事業の実施
- ◆福井県まごころ基金助成事業の実施



子ども福祉委員委員任命式



2 社協のネットワーク機能を活かした地域福祉の推進

- ◆子ども福祉委員モデル事業（再掲）
- ◆地域福祉推進実践フォーラムの開催
- ◆福井県災害ボランティアセンター連絡会との連携
- ◆福井県民生委員児童委員協議会の支援および民生委員児童委員活動との連携
- ◆市町社協との協働
 - ①県市町社協会長会の運営と活動支援
 - ②市町社協課題解決戦略会議（事務局長会議）の開催
 - ③市町社協トップセミナーの開催

- ④社協ワーカー養成研修（基礎、実践力強化）の実施
- ⑤社協ボランティアセンター基幹職員の実践力向上に対する支援
- ⑥市町社協ステップアップミーティングの開催
- ⑦「社協による地域福祉推進研究会」の設置・運営
- ⑧市町社協等が取り組む地域福祉活動への支援

II 福祉力を支える人づくり

1 福祉人材の確保・定着とスキルアップへの支援

- ◆介護福祉士等修学資金貸付事業の実施
- ◆保育士修学資金等貸付事業の実施
- ◆介護人材確保定着総合推進事業
 - ①専門員による事業所訪問
 - ②求職相談窓口の設置
 - ③介護施設における高齢者の「ちょこっと就労」促進事業の実施
 - ④「福祉・介護の仕事PR隊」の派遣
 - ⑤ふくしの仕事まるわかり講座の実施
 - ⑥介護事業所・人材マネジメントセミナーの開催
 - ⑦人材定着のためのキャリアパス作成研修の開催
- ◆福祉人材無料職業紹介事業の実施
- ◆ふくい福祉就職フェア等の実施
 - ①社会福祉施設等採用担当者による個別面談、面接対策講座等の実施
 - ②福祉事業者の採用力向上研修（人材確保セミナー）の開催
 - ③ふくし入門教室の開催
 - ④学校訪問説明会の開催
 - ⑤社会福祉事業従事者の確保に関する調査研究の実施
 - ⑥就職内定者応援セミナーの開催
- ◆親子で介護のおしごと魅力発見!! バスツアーの実施
- ◆学校訪問・介護職場体験事業
 - ①福祉のしごと訪問説明会、介護事業所見学・職場体験の実施
- ◆介護人材確保「イメージアップ・ロゴマーク」の作成
- ◆教員免許介護等体験事業の実施
- ◆福利厚生センター事業の実施
- ◆福祉職員を対象とした研修事業
 - ①生涯研修、専門課題別研修、保育士等キャリアアップ研修の開催
 - ②認知症介護実践研修、介護職員等研修の開催
 - ③介護支援専門員証の更新関連研修の開催
- ◆介護支援専門員実務研修受講試験の実施



『つながれボランティアの輪』推進運動

～県民をつなぐ「おかげさま」と「お互いさま」の輪～

ボランティア活動は、思いやりと支え合いの心を育み、地域社会への関心の深まりとつながりの再構築に大きな役割を果たすことが期待されています。

また、本県は、ボランティア活動に対する県民の意識が全国的にも高く、その活動範囲も福祉をはじめ、青少年育成や環境保全、まちづくり等多分野に及んでいます。

福井県ボランティアセンターでは、本県におけるボランティア活動の一層の推進と、県民のみなさんが、ボランティア活動を通じて「つながり」や支え合う社会の「価値」や「豊かさ」を実感できることを目的に、今年度も『つながれボランティアの輪』推進運動を実施します。

【推進項目】

- ① ボランティアについて知り、ボランティア活動を体験するためのきっかけづくり
- ② ボランティア活動の楽しさや、やりがいを感じてもらう機会づくり
- ③ ボランティア活動の価値や活動を通じた気づきの共有

各事業詳細は福井県ボランティアセンターwebページからどうぞ。

夏休みにボランティアしませんか?

サマーボランティア体験2019

ボランティア活動が「いつでも・どこでも・誰にでも」取り組めることを体験していただく機会として、サマーボランティア体験を実施します。

ここでは、福祉施設でのお手伝いや環境保全など、豊富な活動メニューの中から興味・関心のある活動を選んで体験することができます。

「ボランティア活動をしたことがない」という方も、この機会にぜひご参加ください。

【体験期間】 7月20日(土)～9月28日(土)
【申込先】 県・市・町の社会福祉協議会 等

ボランティア作文コンクール作品募集!

ボランティア活動や日ごろの支えあいを通じて、だれかとつながり、支えあうことの豊かさを感じた瞬間を伝えてみませんか?!

入賞作品は、11月2日(土)に福井県立大学永平寺キャンパスで表彰式を行うほか、福井県ボランティアセンターのホームページでも紹介します。

＜作文テーマ＞

- ① あなたのよこび、わたしのよこび
- ② ボランティアでつながる輪

【応募資格】 福井県内在住の小学生以上の方
【応募締切】 令和元年9月10日(火) 必着
【応募先】 福井県ボランティアセンター



福井県ボランティアセンター
マスコットキャラクター
「ランティ」

保育関係者約700名が永平寺町で研究協議

第59回福井県保育研究大会

令和最初の「第59回福井県保育研究大会」が、6月9日(日)福井県立大学永平寺キャンパスにおいて開催され、県内の保育関係者約700名が教育・保育、子育て支援などに関する様々な課題について研究協議を行いました。

8つのテーマ別分科会討議

午前中は「新たな時代の保育実践」「配慮を必要とする子どもや家庭への支援」等、8つの分科会に分かれ、日頃の保育実践を踏まえた気づきや課題に関する意見発表の後、グループごとに、工夫して取り組んでいることや悩み等に関し、活発に情報交換・協議を行い、専門職としての使命を確認しました。



▶日頃の取り組みを発表する参加者



◀グループ討議の様子

式典とあわら市による研究発表

午後はハープ演奏のアトラクション、式典を始め、あわら市保育部会による研究発表があり、「気持ちを調整する力」を育むために」をテーマに、様々な事例や実践を通じて、「我慢」「思いやり」「自分の思いを伝える」「自己肯定感」「保育教諭の関わり」「子ども同士の関わり合い」が子どもにとって重要な力であるとの気づき等が報告されました。



研究発表者(あわら市)による展示コーナー



手作りの飾りで彩られた会場

記念講演と大会宣言採択

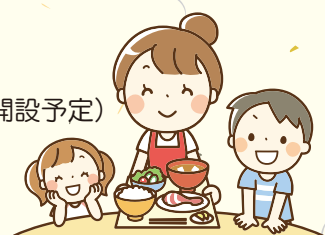
記念講演では、東京大学大学院教育学研究科 遠藤利彦教授が「乳幼児期におけるアタッチメントの重要性と保育者の役割」をテーマに、子どもの発達における安全・安心感の基盤を形成するために保育者としてどのように向き合い関わっていくべきかご教示いただきました。

最後に大会宣言を採択し、教育・保育の質の向上に向けた決意を参加者全員で確認し、明日からの実践に向けて気持ちを新たにしました。

こども未来支援事業(子ども食堂への助成)助成先決まる

この事業は、県社協が設置している「松原ふれあい基金」を活用して、地域ぐるみで子どもの居場所づくりや食の支援に取り組む「子ども食堂」の立上げ支援を行うものです。

- ◆助成内容 「子ども食堂」の開設等費用
- ◆助成総額 400,000円(1団体200,000円)
- ◆交付先 医療法人社団オレンジ つながる食堂(福井市で開設予定)
子ども食堂 はあとの実(坂井市で開設予定)



福井県運営適正化委員会からのお知らせ

～福祉サービスにかかる苦情相談窓口のご案内～

福祉サービスを利用して、あらかじめ聞いていた内容と違っていたり、サービスの提供の仕方に不満を感じたりすることがあるかもしれません。このような苦情について、利用者（家族等含む）と事業者が話し合いにより解決していくことをお手伝いするために、福井県運営適正化委員会（福井県社会福祉協議会内）が設置されています。

苦情や相談を事業所との話し合いで解決できなかったり、事業所に直接申し出にくかったりする場合にはお気軽にご連絡ください。秘密は必ず守ります。（匿名でも承ります。）

《相談例》

- ・ 職員の態度・言動で傷ついた
- ・ サービス内容に不満がある
- ・ 話を聞いてくれない
- ・・・等

相談時間	月曜日～金曜日 午前9時～午後5時（祝日、年末年始を除く）
TEL / FAX	0776-24-2347 / 0776-24-8942
E-mail	kujyo@f-shakyo.or.jp

シリーズ こちら経営相談室です！



～現況報告書における「地域における公益的な取組」の記載について～

社会福祉法第24条第2項により「『地域における公益的な取組』の責務」が規定され、法人・施設では必ずいずれかの取組を実施していると思われますが、現況報告書への記載がされていない法人が見受けられます。今回取組例と現行報告書での分類を記載しましたので参考にしてください。また、各法人におかれましては、「地域における公益的な取組」の積極的な情報発信を行ってください。

施設種別の特性や専門性を活かした取組と現況報告書への記載例

施設種別 / 取組例	現況報告書での分類	施設種別 / 取組例	現況報告書での分類
種別共通		障害施設関係施設など	
☐ 実習生の受入	⑦地域住民に対する福祉教育	☐ 障がいの理解促進の取組	⑦地域住民に対する福祉教育
実習生や研修生等の受入による福祉人材の育成		地域住民の交流による障がいの理解促進	
☐ 行事やバザーの開催	⑨その他	☐ 買い物支援サービス	②地域の要支援者に対する配食、見守り、移動等の生活支援
行事やバザーを通じた早期発見に向けた相談しやすい環境づくり		移動が困難な障がい者等に対して買い物支援サービスを実施	
☐ 複数法人関連事業への参画	⑧地域の関係者とのネットワークづくり	高齢者福祉関係施設など	
連携事業への参画による地域のセフティーネット構築		☐ 配食サービス	②地域の要支援者に対する配食、見守り、移動等の生活支援
☐ 認定就労訓練事業の実施	①地域の要支援者に対する相談支援	高齢者世帯に夕食を低額で配り安否確認を実施	
認定就労訓練事業としての生活困窮者への就労支援		☐ 認知症カフェ	⑥地域の福祉ニーズ等を把握するためのサロン活動
☐ 災害時に備えた地域のコミュニティづくり	⑧地域の関係者とのネットワークづくり	認知症カフェの開催による認知症への理解と課題共有	
地域住民と連携した防災体制の構築		☐ 利用者負担軽減制度	⑤既存事業の利用料の減額・免除
		低所得者の介護保険サービスの利用者負担軽減	
保育所など		救護施設など	
☐ 地域の子育て家庭の相談支援	①地域の要支援者に対する相談支援	☐ 生活困窮者への自立支援	①地域の要支援者に対する相談支援
園庭解放・近隣地域の子育て家庭を対象にした育児相談		施設退所者に対する自律相談支援を実施	
☐ 児童虐待防止ネットワーク	③地域の要支援者に対する権利擁護支援	☐ 生活困窮者への生活費支援	④地域の要支援に対する資金や物資の貸付・提供
児童虐待防止ネットワークへの参画		生活困窮者への生活費支給や物資の貸付	
☐ 子育てサロン	⑥地域の福祉ニーズ等を把握するためのサロン活動		
子育てサロンの実施による子育て家庭の居場所づくり			
社会的養護関係施設			
☐ 施設退所者への継続的な支援	①地域の要支援者に対する相談支援		
児童養護施設退所者への相談支援			
☐ 児童虐待防止ネットワーク	③地域の要支援者に対する権利擁護支援		
児童虐待防止ネットワークへの参画			

※なお、現況報告書の記載については、平成29年3月29日付厚生労働省通知の、「社会福祉法人が届け出る『事業の概要等』等の様式について」の記載要領を参考に記載してください。

福井県介護実習・普及センター 研修・講座のご案内

福井県社会福祉協議会では施設で働いている方に向けた『初任者のための介護技術向上研修』・『介護職員等訪問指導研修』、一般の方に向けた『楽・らく介護講座』・『介護出前講座』を実施しています。それぞれ受講料は無料です。

気になるメニューはお早めにお申込みください!!お問合せもお待ちしております!!



楽・らく介護講座メニュー(一般向け)

- ☆9月26日(木)入浴と着替えのお世話(嶺北)
- ★9月25日(水)家庭でできるリハビリ(嶺南)



初任者のための介護技術向上研修メニュー(職員向け)

- ☆疾患理解と身体観察のポイント(7月)
- ☆介護現場を守るリスクマネジメント(7月)
- ☆認知症の理解と尊厳あるケア(7月)
- ☆介護現場におけるハラスメント(10月)
- 他…etc.



介護出前講座メニュー(一般向け)

- ☆腰痛にならないための身体の起こし方
- ☆食事の工夫やお世話のしかた
- ☆認知症の理解と接し方
- ☆介護ストレス解消
- 他…etc

介護職員等訪問指導研修メニュー(職員向け)

- ☆自立支援をめざした福祉用具の選定と活用
- ☆嚥下困難者のケアと食事介助
- ☆個浴の入浴介助法
- ☆利用者の能力を引き出す移動・移乗
- ☆褥瘡・拘縮予防とポジショニング
- 他…etc.



《問合せ先・申込先》 福井県介護実習・普及センター

嶺北事務所: 福井市光陽2-3-22 TEL0776-24-0086 FAX0776-24-0063
嶺南事務所: 小浜市白髭112 TEL0770-52-7832 FAX0770-52-7834

介護施設で働くことに興味はありませんか?

ちょこっと就労就職説明会の開催



内 容 短時間の就労を希望する方と短時間の雇用を希望する介護施設が地域ごとに集まり、説明会(面談会)を開催します。食事の配膳やシーツ交換等介護の補助的な業務のお手伝いが中心です。空き時間を利用して、住み慣れた地域で、あなたのスタイルに合った働き方をご提案します!

開催日程 *申込不要 *入退場自由 *履歴書不要

NO.	地区	開催場所	開催日	時間	施設所在	参加施設
1	福井	福井県社会福祉センター (福井市光陽2丁目3-22)	7/17 (水)	14:30	福井市	リベルテ竜郷 大宮・仁愛ケアサービス 六条厚生会・文珠苑・あさくら苑 県民せいきょう(宝永・江守・岡保・羽水)
					永平寺町	ひかり苑
2	丹南	アイアイ鯖江健康福祉センター (鯖江市水落町2丁目30-1)	7/19 (金)	16:00	鯖江市	県民せいきょう鯖江きらめき 五岳園・かがやき
					越前市	ケアフルハウス・シルバーハイツ武生 県民せいきょう丹南きらめき
					越前町	海楽園

●「ちょこっと就労」の受入施設の募集も10月31日(木)まで受け付けております。

「かいご」の基本的な知識を学んでみませんか?あなたの学びが、人手不足の介護施設の力に!!

介護入門的研修参加者募集

内 容 介護に関心をもつ介護未経験者を対象に介護に関する基本的な知識を学ぶ。

開催日時 福井会場: 7月17日(水) 10:15~14:30

丹南会場: 7月19日(金) 10:15~14:30

会 場 福井県社会福祉センター (福井市光陽2丁目3-22)

アイアイ鯖江健康福祉センター (鯖江市水落町2丁目30-1)

申込方法 お電話で氏名・住所・電話番号・生年月日・年齢・性別をお伝えください。

※坂井地区・奥越地区・二州地区・若狭地区は開催終了しました。



【人材研修課 人材グループ】

TEL0776-21-2294

FAX0776-24-0063

E-mail: jinzai-center@f-shakyo.or.jp

社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。

寄付 寄贈

♥ 6月14日(金)

贈呈者 福井県信用金庫協会 様(福井市)

寄付金 207,000円(ワンコイン募金運動募金)

使用済み切手 29.2kg(約204,000枚)

書き損じハガキ 13枚

※使用済み切手および書き損じハガキは知的障害者の社会啓発運動および自立支援、生きがいづくり支援事業を行っている団体へ送付

贈呈者 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会



+キドリ情報

子どもの居場所づくりフォーラム

子どもが地域の中で安心してすごせる居場所を



親の生活困窮を背景とする子どもの貧困は、物質的な格差だけでなく社会とのつながりも薄れ、貧困の連鎖につながるなどが指摘されています。

こうした中、市民の発意による「子ども食堂」等の取組みが注目されていますが、すべての子どもの居場所が確保されることの重要性を関係者と共有し、多職種・多機関の連携・協働について理解を深めることを目的に、本フォーラムを実施します。

●日 時 2019年8月1日(木) 13:00~16:20

●場 所 福井県自治会館 2階「多目的ホール」(福井市西開発4丁目202-1)

●対 象 子ども・若者支援活動に取り組む方、興味のある方等(200名)

●プログラム

13:00~13:10 開会

13:10~14:10 講演「『子どもの居場所』を考える」

14:20~16:20 シンポジウム「県内の実践から『子どもの居場所』を考える」

●講 師 湯浅 誠氏(社会活動家・東京大学特任教授)

●申 込 本会までお問い合わせください。

●問合せ先  地域福祉課 地域福祉グループ

TEL0776-24-4987 FAX0776-24-0041 E-mail chiiki@f-shakyo.or.jp



 赤い羽根共同募金助成事業

▶表紙の写真◀

平成9年1月2日、島根県沖の日本海でロシア船籍のタンカー「ナホトカ号」が事故で沈没、折れた船首部分が漂流し、同月7日に坂井郡三国町(現坂井市三国町)の沖合で座礁した。この事故で流れ出た重油が県内の沿岸地域に漂着し、環境汚染をもたらした。そして、この重油回収のために、県内外から延べ12万人を超えるボランティアが活躍した。

冬の日本海の厳しい気象条件の中、約3か月間におよぶ作業の結果、海は元の美しい姿を取り戻すことができた。この教訓と歴史を後世に伝えていこうと、三国町安島の手を見下ろす丘には、記念碑が立てられている。

お詫びと訂正

5月号(第436号)の7ページ下段「積善会号があなたのまちへ〜福祉サービス車両購入助成事業〜」の「助成法人の声」の記載に以下の誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

誤) 社会福祉法人 新生会 → 正) 社会福祉法人 新清会